

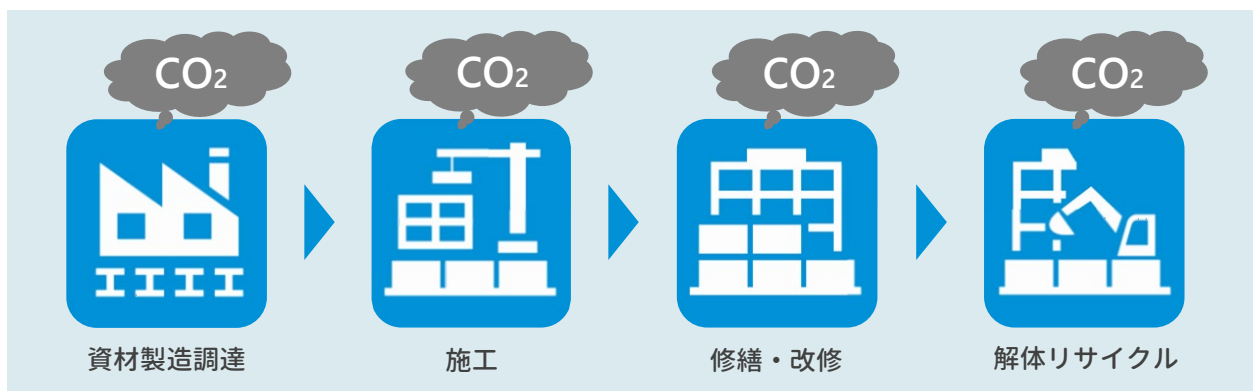
# カーボンフットプリントを活用した建物建設のCO<sub>2</sub>排出量「見える化」



## CFP評価の概要と評価事例

### 概要

安藤ハザマは、建築物を一製品と捉え、**カーボンフットプリント (CFP)** を活用してCO<sub>2</sub>を算定・評価・情報開示できる仕組みを確立しました。



### CO<sub>2</sub>評価の現状

- ◆業界統一的な算定ルールがない
- ◆設計者にLCAの知見がない
- ◆どこまで細かく試算するか等  
依頼者、実施者の考え方による

物件毎の排出量提示が難しい

### 安藤ハザマのCFP評価

- ◆ISOに準拠した統一的な試算
- ◆第三者認証型環境ラベル付与による信頼性・透明性確保

物件毎の排出量提示の仕組みを確立



**SuMPO環境ラベルプログラム**  
Japan EPD Program by SuMPO

CFPはISO（国際標準化機構）に準拠した環境ラベルの一つです。日本国内では、一般社団法人サステナブル経営推進機構の「SuMPO環境ラベルプログラム」によって運営されています。

### 評価事例

当社設計・施工案件「鷺沼独身寮」



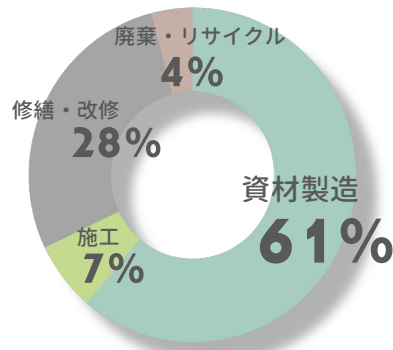
※設計情報に基づき、建屋製造、修繕・改修、廃棄・リサイクルを対象として算定しています。家具や設備機器、外構および建設物運用段階の評価は含まれていません。

CO<sub>2</sub>排出量が多い項目を把握し、注力すべき項目を「見える化」します。

床面積1㎡・耐用年数65年あたり



CO<sub>2</sub>の「見える化」  
カーボンフットプリント  
登録番号：JR-AA-21001C  
<http://ecoleaf-label.jp/>



お問い合わせ

建設本部 技術研究所 脱炭素技術開発部

☎ 029-858-8814

## CFP 評価の活用方法について

### 活用方法例 ①

Case 01 ベンダーからの工場のカーボンニュートラル化要求への対応

工場のカーボンニュートラル化を目指してほしいのだけど、そもそもこの工場はどれくらいのCO<sub>2</sub>を出して建てられたの？



Case 02 将来ますます高い精度で要求されるサプライチェーン排出量の情報開示への活用

- ◆ プライム市場上場企業に求められるサステナビリティの取組みに関する情報開示
- ◆ SBT、TCFDなどの情報開示の根拠データとしての活用

当社が提供する建物建設に関わるCO<sub>2</sub>排出量の「見える化」情報を、ステークホルダーとのコミュニケーション等にぜひご活用ください！

### 活用方法例 ②

CO<sub>2</sub>削減の  
具体的提案

### 環境にやさしい建材・工法のご提案

見える化した情報を基に、様々なCO<sub>2</sub>削減の具体的提案が可能です。

項目	削減策	CO <sub>2</sub> 削減量
普通コンクリート	低炭素型コンクリートへの変更	▲250 t
地盤改良固化材	低セメント材料への変更および攪拌工法の検討	▲100 t
躯体鉄骨	合理化設計による鉄骨数量の削減 (▲5%)	▲150 t
外壁用塗料	外壁用塗料 (ハイブリッドシリコン樹脂系)	▲300 t
一般電力使用による施工	再エネ電力調達100%	▲ 50 t

注) CO<sub>2</sub>削減項目と削減量の数値は評価物件毎に異なります。

安藤ハザマでは、CFP評価で培ったライフサイクルアセスメント (LCA) 手法によって、CO<sub>2</sub>だけでなく様々な環境影響を評価できます。製品やサービスの環境負荷の「見える化」でSDGsに貢献します。



# CARBON POOLコンクリートの開発と実装



## CO<sub>2</sub>を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクト

### 事業概要

#### 研究開発項目1

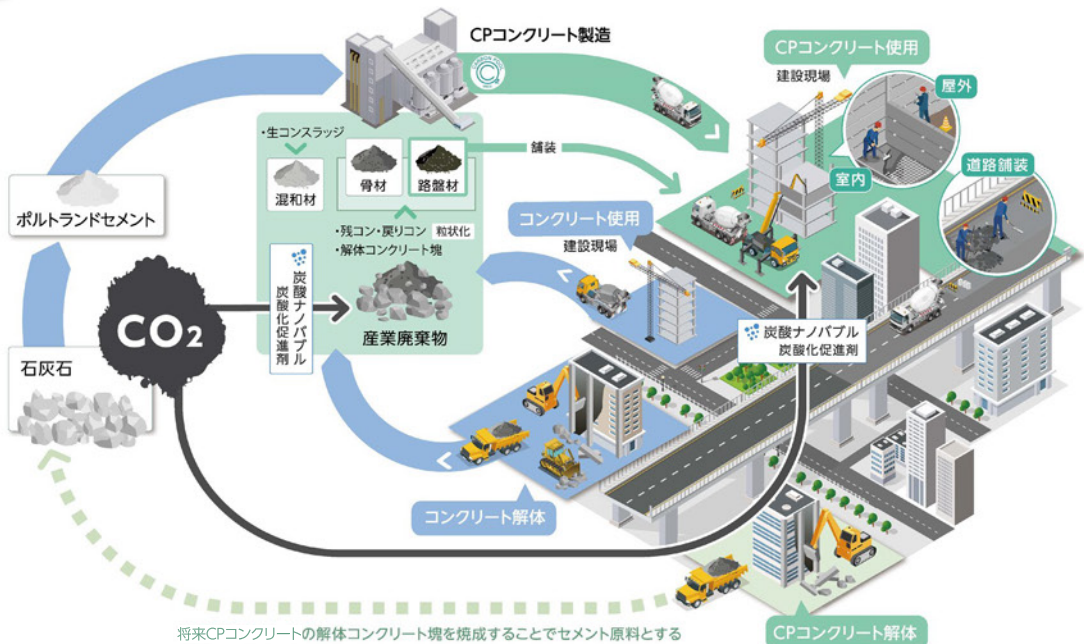
#### 「CO<sub>2</sub>排出削減・固定量最大化コンクリートの開発」

セメント焼成工程などで発生するCO<sub>2</sub>を、コンクリート由来の産業廃棄物に固定化させるという**地域内循環**を構築し、さらに新たな技術を用いて引き渡しまでに**CO<sub>2</sub>固定量を最大化**したCARBON POOL (CP) コンクリートを開発する。CPコンクリートの施工性や耐久性を確保し、**舗装のみならず、建築・土木構造物にも実装**する。

#### 研究開発項目2

#### 「CO<sub>2</sub>排出削減・固定量最大化コンクリートの品質管理・固定量評価手法に関する技術開発」

LCCO<sub>2</sub>・LCA・LCCの総合評価システムを構築することにより**ESG金融の促進**や**カーボンプライシングをサポート**し、脱炭素社会に貢献する。



### 実施体制

#### 研究開発項目1



根幹技術の開発	地域内環境技術の開発	社会実装に向けた開発
(株)安藤・間	(株)内山アドバンス 大阪兵庫生コンクリート工業組合 灰孝小野田レミコン(株)	舗装 大成ロテック(株) 構造物 (株)安藤・間 日本道路(株) 青木あすなる建設(株) (株)浅沼組 (株)佐藤渡辺 トビー工業(株)

#### 研究開発項目2



まとめ及びLCCO <sub>2</sub> 評価手法の開発 (一財)電力中央研究所			
LCCO <sub>2</sub> ・LCA・LCC統合評価設計システムおよび社会実装シナリオの検討 東京大学	品質評価・品質管理手法の開発 東京都立大学	LCA (材料資源) 評価手法の開発 国立環境研究所	LCC評価手法の開発 明星大学

※本事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による、グリーンイノベーション基金事業「CO<sub>2</sub>を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクト」における2030年までの公募事業です。